

世界の主な地震

平成 30 年（2018 年）10 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

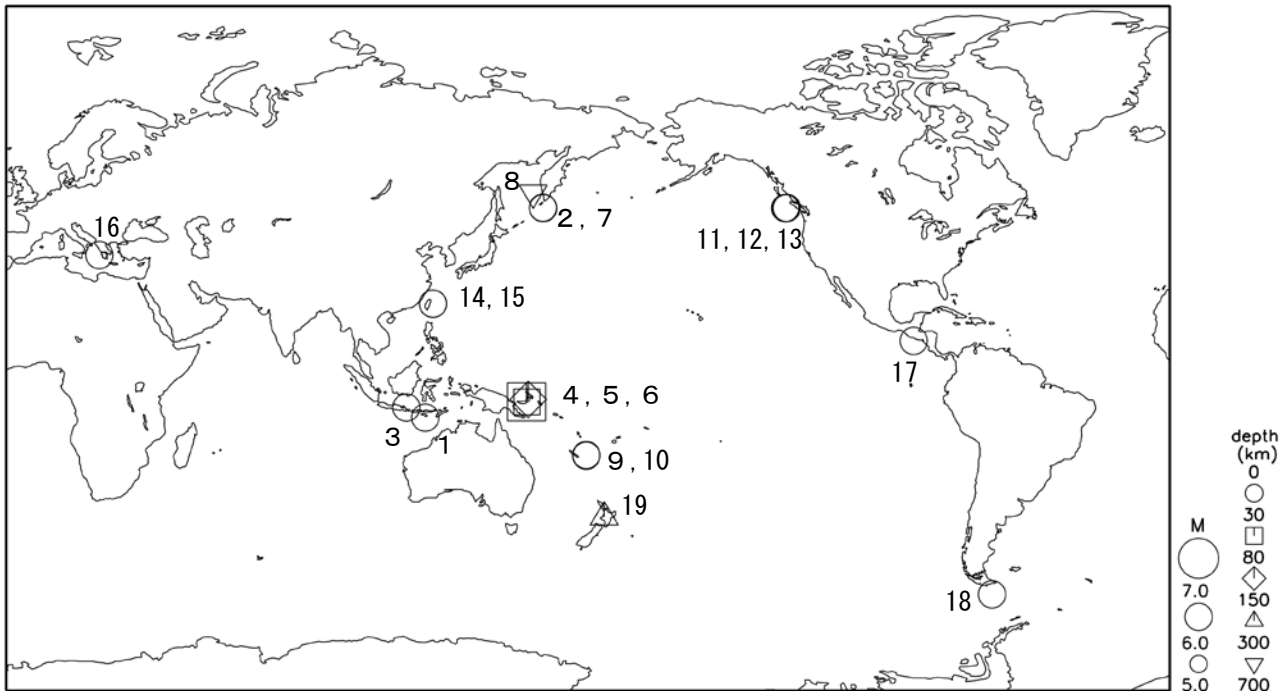


図 1 平成 30 年（2018 年）10 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

表 1 平成 30 年（2018 年）10 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

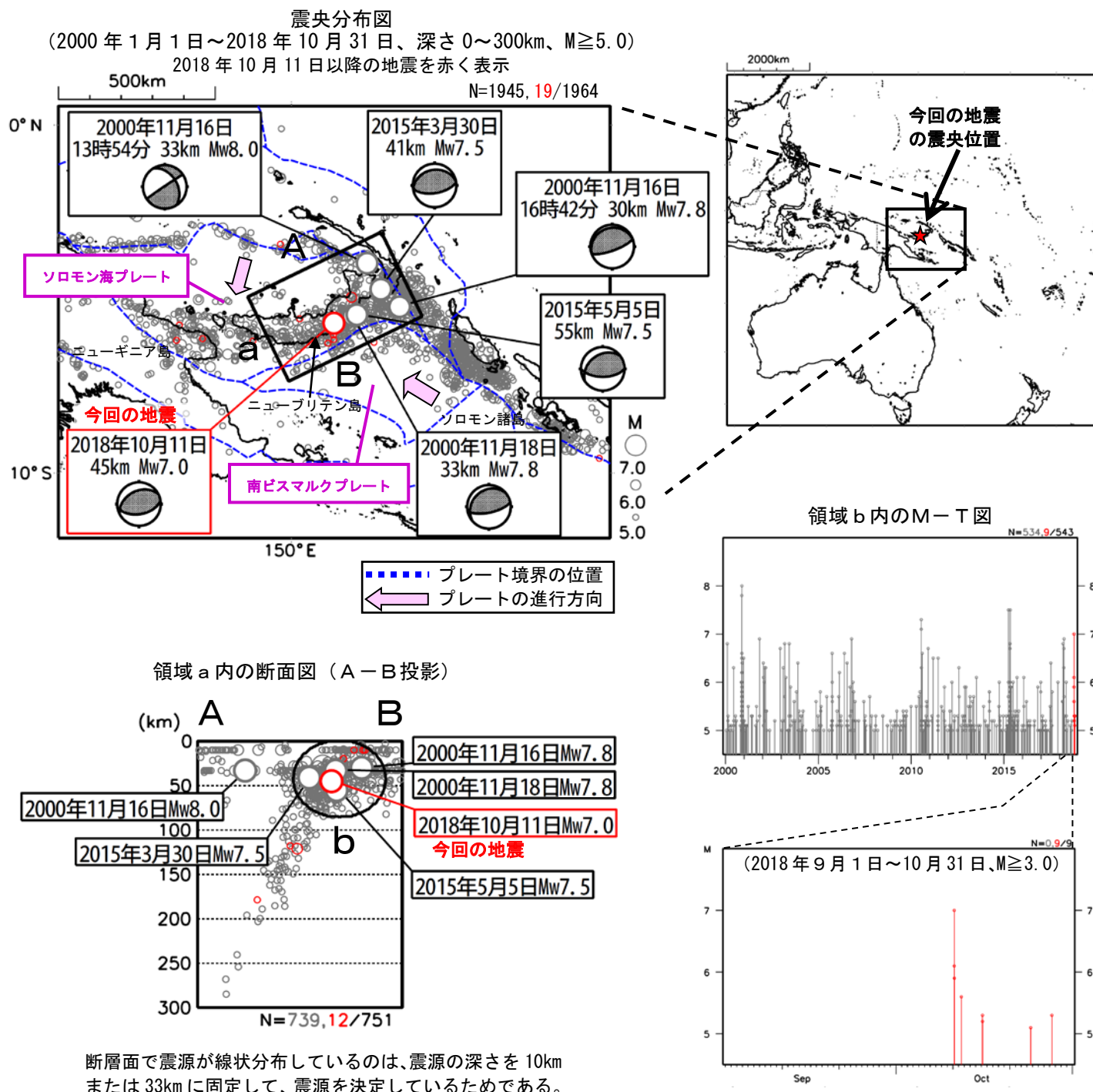
番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北 西	遠 地
1	02日08時59分	S10° 33.4'	E120° 14.5'	29			6.0	インドネシア スンバ島付近			
2	09日16時45分	N49° 23.6'	E156° 13.9'	20			6.1	千島列島			
3	11日03時44分	S07° 27.2'	E114° 27.3'	9			6.0	バリ海			
4	11日05時45分	S05° 45.0'	E151° 19.4'	53			6.1	パプアニューギニアニューブリテン付近			
5	11日05時48分	S05° 42.5'	E151° 13.2'	45			(7.0)	パプアニューギニアニューブリテン付近		○	○
6	11日07時00分	S04° 57.7'	E151° 43.4'	121			6.2	パプアニューギニアニューブリテン付近			
7	11日08時16分	N49° 17.4'	E156° 17.8'	20			6.5	千島列島		○	
8	13日20時10分	N52° 51.3'	E153° 14.6'	461			6.7	千島列島北西方			
9	16日09時28分	S21° 56.2'	E169° 29.4'	10			6.3	ローヤリティー諸島付近			
10	16日10時03分	S21° 43.6'	E169° 29.2'	10			6.4	ローヤリティー諸島付近			
11	22日14時39分	N49° 15.0'	W129° 28.7'	11			6.6	バンクーバー島付近			
12	22日15時16分	N49° 20.8'	W129° 12.8'	10			6.8	バンクーバー島付近			
13	22日15時22分	N49° 18.9'	W129° 40.4'	10			6.5	バンクーバー島付近			
14	23日13時34分	N23° 57.3'	E122° 35.7'	26		6.1	(5.8)	与那国島近海			
15	24日01時04分	N23° 58.1'	E122° 36.1'	28		6.3	(5.7)	与那国島近海			
16	26日07時54分	N37° 30.3'	E020° 33.8'	14			(6.8)	イオニア海			○
17	29日07時23分	N12° 56.9'	W090° 23.1'	25			6.1	中央アメリカ沖			
18	29日15時54分	S57° 24.3'	W066° 24.5'	10			6.3	ドレーク海峡			
19	30日11時13分	S39° 3.2'	E174° 58.6'	227			6.1	ニュージーランド北島			

・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder”
(<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2018 年 11 月 1 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj
の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
・被害状況は、出典のないものは OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)、国内は、
総務省消防庁による。
・地震発生時刻は日本時間 [日本時間=協定世界時+9 時間] である。
・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照)
を発表したことを表す。
・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
・深さに「*」を付したものは、気象庁による CMT 解のセントロイドの深さを表す。

10月11日 パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

2018年10月11日05時48分（日本時間、以下同じ）に深さ45kmでM7.0の地震が発生した。この付近には、ソロモン海プレートと南ビスマルクプレートの境界がある。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。気象庁は、この地震に対して、同日06時15分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M7.0以上の地震が度々発生するなど活発な地震活動がみられている。過去の活動をみると、今回の地震の周辺（領域a）では、2000年11月16日にM8.0、M7.8、11月18日にM7.8の地震が連続して発生し、11月16日のM8.0の地震では、津波が観測され、死者2人、住家被害多数の被害を生じた。



断層面で震源が線状分布しているのは、震源の深さを10kmまたは33kmに固定して、震源を決定しているためである。

※本資料中、2015年5月5日の地震及び今回の地震の発震機構とMwは気象庁、その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。また、2000年以降の地震の震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2018年10月31日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.